

令和元年10月11日
オリンピック・パラリンピック推進課

東京2020大会における「TOKYO WATERFRONT CITY」の展開について

1 概要

青海・有明を含む臨海副都心エリアは、東京2020大会において、聖火台を中心に7つの競技会場、パートナーショーケーシングエリア（※1）、メガストア（※2）などの大会関連施設が置かれ、都市とスポーツが融合された東京2020大会を象徴する場所となることから、大会組織委員会では、この臨海副都心エリア全体を「TOKYO WATERFRONT CITY（トーキョーウォーターフロントシティ）」と銘打ち、誰もが大会を楽しめる新しいオリンピック・パラリンピックの発信地として、象徴となる取組みを「URBAN FESTIVAL（アーバンフェスティバル）」、「PLAYGROUND（プレイグラウンド）」、「OLYMPIC PROMENADE（オリンピックプロムナード）」の3つの場所で展開していく。

- （※1）パートナーショーケーシングエリアとは、東京2020大会パートナーが出展するパビリオン等で盛り上げるエリアのこと。青海アーバンスポーツパークに隣接した屋外エリアと、東京テレポート駅近くの展示場内の2ヶ所に設置。
- （※2）メガストアは、公式ライセンス商品を専門に販売するオフィシャルショップで、2つのパートナーショーケーシングエリアにそれぞれ設置。

2 コンセプト

「新しいオリンピック・パラリンピックの発信地」

「スタジアム」から「街中」へ、「観る」から「触れる」へ、「受動」から「能動」へ。

これまでのオリンピック競技とは異なる、スポーツとの新しいエンゲージメント。

洗練された街の中で、オリンピック・パラリンピックを自由に楽しめることができる場所。

3 TOKYO WATERFRONT CITYの象徴となる取組み

URBAN FESTIVAL (アーバンフェスティバル)
<ul style="list-style-type: none">・東京2020大会新種目のBMX フリースタイル・スケートボードの会場となる有明アーバンスポーツパークと有明体操競技場の両会場の運河沿いで、アーバンスポーツの魅力を存分に体感することができる「アーバンフェスティバル」を展開・アスリートによるエキシビジョンやBMX・スケートボード等のアーバンスポーツを中心とした競技体験コーナーを設置し、アーバンスポーツならではの楽しみ方を提供するとともに、ミストや日よけによるクールスポットなど、来場者が快適に楽しめるコンテンツを実施
PLAYGROUND (プレイグラウンド)
<ul style="list-style-type: none">・大会史上初の試みとして、観戦チケットを持っていない人でも世界トップレベルのアスリートと触れ合える機会を提供・青海アーバンスポーツパークに隣接するパートナーショーケーシングエリア内に、「プレイグラウンド」として、同会場で実施する3x3バスケットボールとスポーツクライミングのアスリートが練習する姿を間近に見ることができる公開ウォームアップエリアを設置・来場者が練習風景を間近で観るだけでなく、練習するアスリートとハイタッチなど実際に触れ合うこともでき、競技がない日にはアスリートの練習場所であるウォームアップエリアで競技体験等を楽しむことが可能
OLYMPIC PROMENADE (オリンピックプロムナード)
<ul style="list-style-type: none">・青海・台場地区と有明地区を東西につなぐ約2kmのセンタープロムナード一帯を「オリンピックプロムナード」と名付け、大会期間中に訪れた全ての人が東京2020大会を楽しむことができるオープンな場所として展開・聖火台を中心とし、スポーツやアートのライブパフォーマンスや、パートナー企業の協力のもとクールスポットや休憩スペースなどを設置